

第3回関東甲信越地区 SGH 課題研究発表会

活動報告レポート

13期生3年3組31番 三輪明日香

私たちはHe For Sheゼミとして、12月23日に立教大学での発表会に参加しました。今年は、昨年の研究成果を踏まえ、それらを継続する形で研究を進めてきたため、昨年と同じ“A Society “of” and “for” Individuals”というタイトルで、女性の社会進出とそれらが社会に与える影響、そして日本社会があるべき姿等についての研究成果を英語プレゼンという形式で発表しました。私は、女性の社会進出による社会全体へのメリットについて発表を行いました。研究内容が非常に濃く、与えられた発表時間内に収めることがとても難しかったです。また、言語が英語ということもあり、考えた文章を話すことに夢中になってしまい、プレゼンにおいて最も求められる「相手を意識して工夫して伝える」ということをあまり意識できていなかったことが反省点として挙げられます。しかしながら、昨年と比べると、堂々と自信をもって発表することができ、大いに成長を感じられる貴重な機会となりました。このような機会を与えてくださった全ての皆様に感謝申し上げます。今後とも、このような大変意義のある素晴らしい活動を継続していくことができたら幸いです。

13期生3年2組32番 リップルアメリ

私の所属するゼミは、女性のエンパワーメントを図る国連の機関、UN women の実施するキャンペーン HeForShe を広めるものとして設立されました。第3回関東・甲信越静地区 SGH 課題研究発表会において、私たち HeForShe ゼミは、日本のジェンダーギャップ指数の上昇を目標とした、生徒による「読み聞かせイベント」を提案しました。少子化に結び付けられやすい女性の社会進出に関して図・表を用いて分析し、これからの日本の課題を示しました。第2回関東・甲信越静地区 SGH 課題研究発表会に引き続き、今年度も発表会に参加した者として今回の発表を振り返ると、より分かりやすい発表形式にレベルアップできたこと、データに基づいた課題研究が強化されたことは、自らの成長として認識しています。しかし、課題設定が曖昧な点や結論への落とし込み方が不十分な点に関して、自らの研究の甘さを痛感しました。他校の研究発表を拝見して得た新たな気づきを元に、今後も研究活動に精進してまいります。

14期生2年2組28番 福島ちひろ

私はHe For Sheゼミとして「自分らしく生きる社会」というタイトルで男女差別をなくして自分らしく生きる社会に向けて一年間研究したことを発表しました。私は自分の所属しているゼミと国連が定めたSDGsの中の「ジェンダー平等を実現しよう」について説明しました。初めての発表だったので、楽しみでしたが緊張もしました。しかし実際の発表では止まらずにすらすら発表することができました。全体的には反省点もいくつかありますが、無事発表を終わらすことが出来て良かったと思います。たくさんアドバイスももらったので、この発表を生かして来年の研究に生かしていこうと思います。また、他学校の発表も聞いて工夫するべき点も数多く見つかったので次に発表する機会が生かしていけたらと思います。今回のこの課題研究発表会を通して、ゼミとしてはもちろん、自分自身も成長することができました。私達の発表に協力していただいたたくさんの方々へ改めて感謝の気持ちを申し上げます。

15 期生 1 年 2 組 15 番 俵遼太郎

私は、今回の立教大学で行われた発表会で「六次産業化で農家に夢を～農家のマッチング事業を通じた農業支援プラン～」というテーマでプレゼンテーションをしました。この研究は、生産の一次産業と加工の二次産業、販売の三次産業を合わせた六次産業を行うことで農家の収入は上がるものの、収益が上がらない現状を解決するために、農家をマッチングし、部分的にまとめて行うプランを考案したものです。プレゼンテーションでは、競合先とプランの課題とその解決策について発表しました。私は発表を終えて、人が多くいる前での発表や周りが 5 年生で足を引っ張る訳にはいかないことなどで、緊張していましたが、これからの研究や発表の機会に役立つ経験になったと感じ、これからにつなげていきたいと考えています。今回の発表会では、多くの人々の研究の発表を見ました。多種多様な研究や発表方法を見学できたことで、中心とする視点の置き方や課題以外の注目するべきところについて学びました。今後は、5 年生からこの研究を引き継ぐので、しっかり引き継いで良い研究をしていきたいと思っています。